

# 『ふろむ・マラウイ』～番外編4 むらの仕組み～

24th /March/2016 第41号

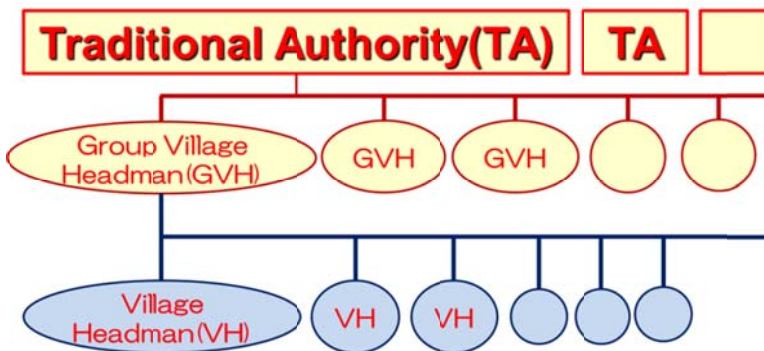
Muli bwanji ! (ムリブワンジ: チェワ語でこんにちは、ご機嫌いかがの意)

マラウイの農村地域は、村を形成し、村民がそれぞれ小面積を耕作して自給自足的な生活をしています。マラウイの基本的な社会構造は、村社会の典型的な特徴を有しており、小規模灌漑施設建設を実施する場合、村民=受益者となり、村の数は灌漑面積に応じて、単一または2～3の村の集合体になります。灌漑施設建設を通じて、デッサ県内のチェワ族の農村地域における村の仕組みに触れることができました。本稿では、マラウイの村の仕組みについてご紹介します。

村の人口は、2～3世帯で構成される20人程度の村から300人位の大きな村までと大小は様々です。村ごとに村長(Village Headman: 以下VH)がいます。

営農面に焦点をあてると、村長の役割は農地の「オーナー」です。オーナーと言っても、完全な地主と小作人といった関係性ではなく(地代は発生している可能性は高いが確認できない)、比較的緩やかな印象を受けます。村長は、農地の耕作権を村民に与える権限を持つといった色合いが濃いように思われます。耕作権は、世帯ごとではなく、個人個人に割り当てられるケースが多いようです。村長の仕事は、他に支援プロジェクトの窓口として政府との交渉役、村民同士の諍いの仲裁を行います。村長は、世襲がほとんどですが、村長が女系・男系の村が入り交じっており、女性の村長も沢山います。

時折、水利権をはじめとする村同士の諍い、または村長がうまく村民をまとめられない場合があります。そんなときには村々を束ねるGroup Village Headman(以下GVH)に相談があがっていきます。GVHとは、2～100程度の村を束ねるリーダーで、村長に対して指導する立場になります。GVHは、グループ内のVHの1人で、世襲制をとっています。それらGVHの上に立つのが、トラディショナル・オーソリティー(Traditional Authority: 以下TA)です。エリア全体の首長であり、大きな権限を持ち、ほぼ県の行政長官に比肩します。デッサ県内には、10名のTAがあり、それぞれのエリアを管轄しています。このように、TAを頂点とした階層的な構造で地域がまとまっています。TAは、マラウイ政府からオフィスの譲与を受け、手当も支給されており、住民行政の一翼を担っています。



マラウイの伝統的な社会構造

村の子どもたち

小規模灌漑施設建設に際しては、受益者で構成される水管理組合(Water Users Association)を設立しますが、権限の集中を避けるため、水管理組合長は村長以外の村民を選出する場合があります。大規模灌漑施設の場合は特に顕著で、建設により受益地全体の収益が大きく向上するため、政府とTAの利害が衝突する場合があります。そのような事態が発生したときは、政府担当者はTAに対して粘り強く説得をしていきます。

伝統的な首長や家長の権限が強い農村地域では、不当な利益の搾取や低年齢の女性に対する結婚の強制など社会的な問題もあるのも事実です。しかし、村のほとんどはこの慣習を上手に使い、お互いが助け合って生活しています。